ふるさと岐阜　古地図散歩

第１回　１０月１８日（日）　垂井町・大垣市　「美濃路‐垂井宿追分～大垣宿をゆく‐」

講師　鈴木　隆雄　氏

当日のコース

垂井駅北口（出発）→美濃路・中山道追分　→　綾戸の松並木　→昼食　→静里の美濃路並木松　→久徳一里塚　→うだつのある町家　→奥の細道むすびの地記念館　→名勝おくのほそ道の風景地・大垣船町川湊（解散）

１ 概要(講師資料より)

美濃路：中山道垂井宿のはずれから東海道宮宿へ通じる幕府道中奉行の管轄下に置かれた街道。大垣→墨俣→起→萩原→稲葉→清州→名古屋→宮（東海道）に至る。

① 美濃路・中山道追分：ここには宝永６年（１７０９）に建立された道標「是より右東海道大垣みち　左木曽海道たにぐみみち」が残っている。もうひとつの享保３年（１７１８）建立の道標「右みのぢ　大かきミチ　あつたミチ　左きそぢ　たにぐみミち　ぜんこうじ道」は現在タルイピアセンター中庭に復元されている。これらに刻まれた文字から、当時の旅人の目的が寺社参詣であったことがわかる。大きく平仮名を用いた文字は、寺子屋教育を受けた庶民でも読めるように配慮されたものである。

② 綾戸の松並木：夏は旅人に木陰を提供し、冬は深い積雪があっても道筋を示すのに役立った。美濃路で唯一現存する貴重な松並木である。しばらく歩くと、「綾戸の一里塚」跡地である。土盛りも標識もないが、ここに存在したことが伝えられている。これにより旅人は歩行距離を知り、ここで一息ついたことだろう。元来、街道の左右両側に築かれたが、近代交通や宅地造成の妨げとなり破壊された。

③ 長松城址：「南宮道」道標は美濃国一宮の南宮大社へ向かう近道を案内している。この先に「長松城址」の石碑が建つ。

④ 久徳一里塚：「綾戸一里塚」はすでに姿形を失ったが、「久徳一里塚」は片側のみであるが原形を留めている。もう片方は、モータリゼーションの発達によって道路が拡張され、破壊されたと思われる。

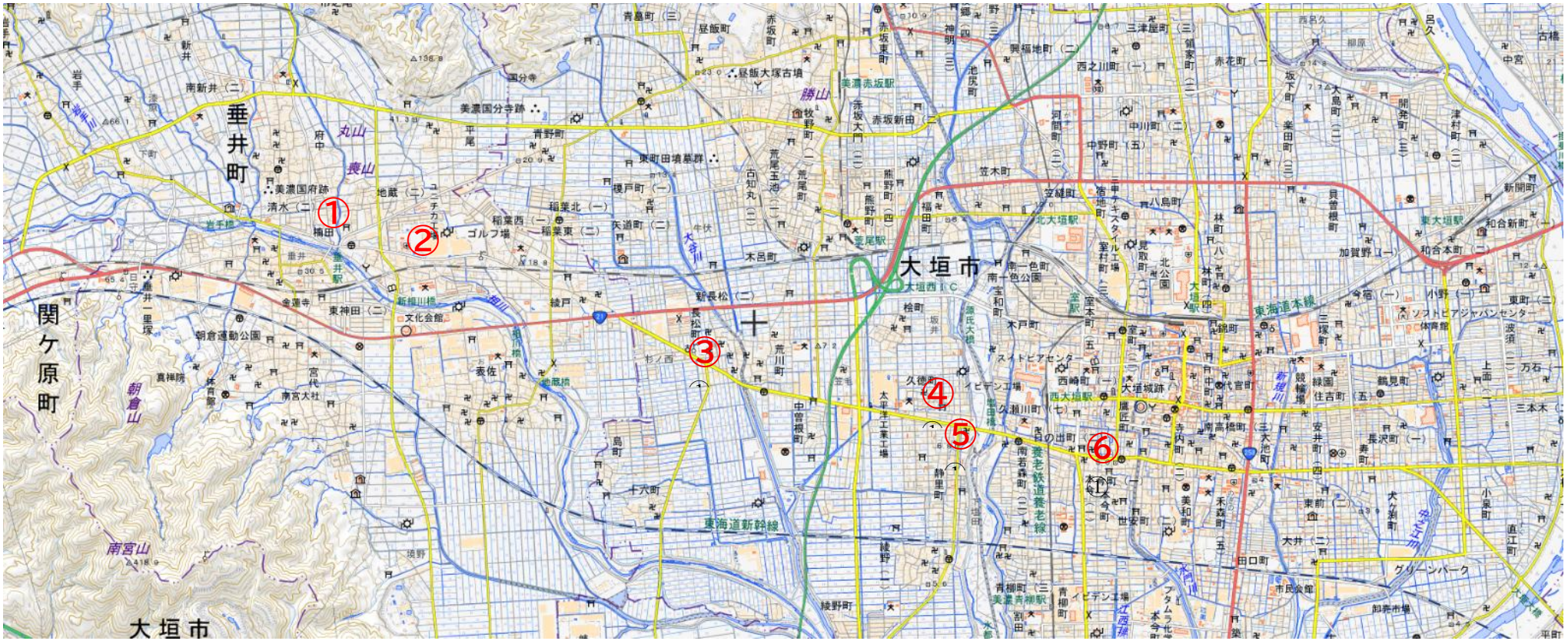
⑤ 常夜燈：美濃路は杭瀬川にぶつかる地点で直角に曲がり、ここには左へ行くと谷汲道であることを案内する常夜燈が建っている。塩田湊跡・旧塩田橋を経て東に進むと、大垣宿に入る。

⑥ うだつのある町家：美濃路沿線に「うだつ」のある町家が存在する。よく観ると東側（左側）より風上にあたる西側（右側）の方が長く分厚くつくられている。これは伊吹おろしと呼ばれる西風によって火が家屋に燃え移るのを防ぐためのものである。このような立派な「うだつ」を設けることは容易でなく、財力の象徴ともされた。

２ 当日使用した当館所蔵の地図

①「関ヶ原合戦図」（部分）作者・発行年等不詳
②　天保国絵図「美濃国」
③「海陸道中大日本早引道中記」森屋治兵衛、塩屋喜兵衛（出版）　天保８年（1837）
④「中仙木曽道中記」石川流宣（画）須原屋久右ヱ門（出版）発行年等不詳
⑤　1：20,000 地形図「垂井」（左　部分）（明治 27 年発行）陸地測量部／同「大垣」（右　部分）（明治 26 年発行）陸地測量部

3　当日の行程と古地図散歩の様子



国土地理院地図（電子国土 WEB）　https://maps.gsi.go.jp/#14/35.366761/136.573448/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1



②美濃路の松並木で涼みながら解説を聞きます。



④当時の旅人と同じように、一里塚でしばしの休憩。



⑤湊に出入りする船や旅人の安全を見守ってきた常夜灯。



⑥左右の幅が違う「うだつ」は伊吹おろしが関係していました。